

クニマスに
会いにいごーGO!



田沢湖クニマス未来館に展示されている丸木舟。1本の杉丸太をくり抜いて作られただけあって巨大です！



一步外に出ると自然林が広がり、湖とはまた違った印象を与えてくれます。散策もおすすめです。



田沢湖クニマス未来館

【開館日】
通年(9:00～16:00)

【休館日】
毎週火曜日
(祝日の場合は翌日)

【入館料】
▶個人/大人300円(高校生以上)、小人150円(6歳未満無料) ▶団体(20人以上) / 大人200円、小人100円

【問合せ】 ☎0187-49-8131



水槽を泳ぐクニマス。いつか田沢湖で泳ぐことができる日を夢見て。



館内は、木のぬくもりを感じながらクニマスや田沢湖の過去・現在・未来について知ることができます。

始まったばかりの未来

田沢湖畔の静かな浜辺にできた新たなスポット「田沢湖クニマス未来館」。皆さんはもう行きましたか？絶滅したと思われていたクニマスが山梨県の西湖で発見され、今年ついに故郷・田沢湖の湖畔に里帰りを果たしました。そんなクニマスを田沢湖クニマス未来館では間近で見ることができます。

約80年前に田沢湖で元気に泳いでいたクニマスが長い時を経て私たちの前に。見ていると最初はとても不思議な感じ。でも、クニマス漁を行っていた巨大な丸木舟や

刺し網の展示物を目にするといつの間にか気持ちとは当時へと移っていきます。

足を進め、クニマスの歴史を辿っていくと当時の田沢湖畔での暮らしぶりを伺い知ることができます。それは、今ここにいるクニマスが本当の故郷(田沢湖)に帰るために必要な道すじとなるようにも思えます。

歴史を振り返り見えてくるもの。当時の貴重な資料が語ること。そして、クニマスにゆかりのある二人のお話。再び田沢湖に戻るためにクニマスの未来は今まさに始まったばかりです。

クニマスに
会いにいごーGO!

今年、田沢湖の湖畔に里帰りを果たしたクニマス。長い年月を経て見せたその姿は、私たちに過去と未来へのメッセージを届けるためにやってきたようです。田沢湖の湖底深くで産卵していた固有種クニマス。田沢湖の未来を大きく握っているクニマスから目が離せません。

田沢湖クニマス未来館の回廊からは、田沢湖や外輪の山々を眺めることができます。

田沢湖の歴史。 じゃあ、これからは？

和暦	西暦	できごと
延宝2	1674	佐竹北家御日記にクニマスが初出。当時のひらがなで「久尔未春」。
天保12	1841	秋田藩主の命により玉川（波黒沢）の除毒工事が開始され、11年後に完工。
明治35	1902	秋田県水産試験場は潟尻地区に鱒ふ化場を設置。滋賀県からヒワマス卵を移植。
	1903	北海道支笏湖から田沢湖へヒメマス卵を移植。以降、昭和7年まで十和田湖などからほぼ毎年移植を継続。
	1907	秋田県水産試験場が潟尻ふ化場で初めてクニマスの人工ふ化試験を実施。
	1909	明治40年度秋田県水産試験場事業報告「國鱒人工孵化試験」が刊行されクニマスの特徴・生態が紹介される。
	1912	榎湖漁業組合の設立総会が開催される。組合員総数65戸。
大正3	1914	秋田県水産試験場の潟尻ふ化場が廃止となる。
	1922	川村京都大学教授が、秋田県立大館中学で教鞭をとっていた岸田久吉から寄贈されたクニマス標本のうち3個体を来日した米国スタンフォード大学教授デイヴィッド・スタア・ジヨルダンに贈る。
	1923	榎湖漁業組合が春山地区の水尻沢にふ化場を新設。1925（大正14）年に秋田県へ寄付し、水産試験場が運営を担うことになる。



春山（水尻沢）ふ化場見取図（図：鬼川浩氏）



明治4～11年頃に作成されたと思われる潟尻地区の漁場図（提供：浅利栄氏）

和暦	西暦	できごと
大正14	1925	アメリカのカーネギー博物館紀要でクニマスが新種の魚として発表される。
昭和2	1927	秋田県水産試験場が春山（水尻沢）ふ化場でクニマス人工採卵を再開。
	1931	田沢湖で春山（水尻沢）ふ化場の湖岸に初めてヒメマスの産卵回遊を確認。人工採卵を実施。
	1934	東北地方が大凶作。田沢疎水事業計画決定。東北振興運動が盛んになる。
	1935	秋田県水産試験場はクニマス卵100万2千粒を採卵、発眼卵93万3千粒のうち山梨県西湖と本栖湖へ各10万粒を分譲する。
	1936	東北振興電力株式会社が設立。
	1938	榎湖漁業組合と東北振興電力（株）との間で漁業補償が妥結。
	1939	玉川河川統制計画が樹立。田沢湖をダム代わりに利用することが決まる。
	1940	日本発送電株式会社が設立。
	1940	農業用水確保と電源開発のため、田沢湖に玉川と先達川の導水を開始。
	1948	生保内発電所、神代発電所が運転を開始。先達発電所が運転を開始。
	23	佐藤隆平東北大学教授が田沢湖の生物調査を実施。「クニマスは著しく減少したか、絶滅に近い状態にある」と1951（昭和26）年に発表。
	28	夏瀬発電所が運転を開始。
	31	県営鑑畑発電所が運転を開始。
	33	鑑畑ダム使用開始、県営田沢湖発電所が運転を開始。
	36	県営小和瀬発電所が運転を開始。
	46	東星興業上先達発電所が運転を開始。
	47	秋田県による簡易石灰石中和対策を開始。

先達川の導水跡に思う

田沢湖畔北側の道路沿いには直径1メートル以上のコンクリートのトンネル跡が所々に見られます。田沢湖に玉川の酸性水が導水されることで、現在の辰子像周辺の田沢湖から流れ出る潟尻川も酸性化してしまふことを懸念し、先達川の水を導水するべく約10㎡に渡り水路が作られたのです。今では使われなくなり地域でも存在があまり知られていない状況ですが、遺構を見ると大掛かりな工事の様子が想像され、田沢湖の変化が地域に与えた影響の大きさを感じます。

田沢湖は今も昔も地域に多くの恵みをもたらすことに改めて気づきます。かつてはクニマスをはじめとした豊富な水産資源を、現在では美しい景観をもたらす貴重な観光資源となっています。

（有）田沢湖自然体験センター
代表取締役 佐藤裕之 氏

どれも地域にとって重要なもので、「クニマスの里帰り」を含め、我々が今後長い時間をかけてどのようなプロセスでどのような田沢湖にしていくのかを真剣に考え選択しなければなりません。



今でも湖畔の道路沿いには、トンネル跡を見ることが出来ます。

和暦	西暦	できごと
昭和53	1978	三浦久兵衛さんが「幻の魚国鱒」を発表。
	1988	三浦久兵衛さんがクニマスを探して山梨県西湖、本栖湖を訪問する。
	1989	玉川酸性水中和処理施設完成、試験運転開始。
平成元	1990	県営玉川発電所が運転を開始。
	1991	玉川酸性水中和処理施設の本格運転が始まる。玉川ダム使用開始。
	1995	田沢湖町観光協会が100万円の懸賞金をかけクニマス探しキャンペーンを開始。
	1997	クニマス探しキャンペーンは懸賞金を500万円に増額して継続。
	2000	「田沢湖まぼろしの魚 クニマス百科」秋田県水産振興センター杉山秀樹著。
	2001	秋田県が田沢湖畔の護岸工事を施工。2015（平成27）年度まで実施。
	22	山梨県西湖でクニマスが発見される。
	23	秋田県、仙北市で「クニマス里帰りプロジェクト」の立ち上げ。
	24	大曲農業高等学校生物工学部が電気分解による田沢湖水の中性化実験を開始。
	25	山梨県水産技術センターが西湖で採捕した天然クニマスから人工授精。
	26	田沢湖畔でクニマス稚魚の生体展示が行われる。
	28	山梨県水産技術センターが第一世代クニマスの人工繁殖に成功する。
	29	山梨県西湖湖畔に「奇跡の魚 クニマス展示館」がオープン。
	29	「田沢湖クニマス未来館」がオープン。

「ここから先の田沢湖の未来は、私たちがつくることのできる。」



浅利さんの話を聞いた編集部員は、濁尻まで水を引いたというトンネルを探しに出かけました。先達川と濁尻の間あたりに、それらしきものを発見！雑草に覆われ見えにくくなっていますが、近づいてみると確かに直径1メートル20センチほどのコンクリートの管がぽっかりと口を空けていました。そこから先達川の間にはパイプラインの側面が見える場所や、パイプラインを支える基礎のようなものが見える場所など様々な姿で点在しています。地域の暮らしに役立ったインフラ遺産を見て、感謝の気持ちがこみ上げました。

道沿いに、 トンネル跡が点在していた この中を用水が通ったのかな？



クニマスに
会いにいごーGO!

漁業が盛んで 小学校もあった

濁尻

浅利さんが所有する昔の濁尻の絵葉書。「羽後田澤湖雪ノ瀧尻西瀧公園ヨリ湖上ヲ瞰下ス 角館宮本商店発行」と記載があります。

濁尻に暮らす浅利栄さんが、子どものころの思い出を語ってくれました。



「私が生まれた頃は濁尻に7軒の家がありました。小さい学校もあって、学校といっても集落のものみたいなどころで、1階は小学校、2階は中学校でした。私の頃は生徒は13人だったな。そこは湖でこっちは山だから泳いだり山に登ったり、楽しいものでした。お昼ご飯は先生も一緒にどこかの家が集まったりして食べて、小さい集落ですからいつもみんな一緒に食べた。小学校1年生の時、田沢湖1周の遠足がありました。山遊びで育つてから全然疲れねがったんし。湖畔で鍋つこやったりおもしろかった」。

「昔は家の前を濁尻川として流れていました。それを止めて、昭和14年には玉川の強酸性の水を入れて発電するという国策で、代わりに真水の先達川の水をトンネルで引いてきて、用水にすることができました」。

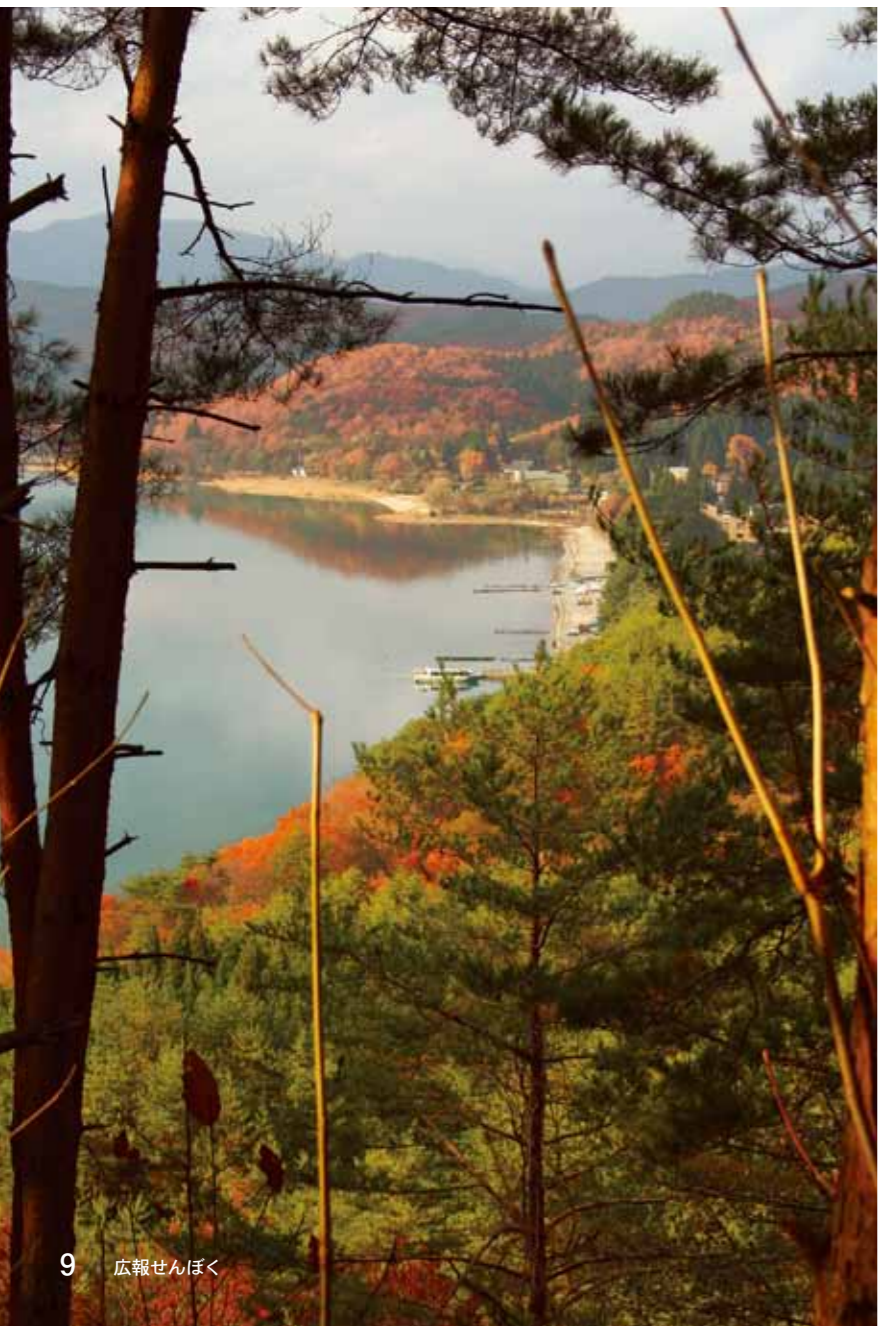
「うちは漁業で生活していたようです。昔は手拭いでも魚が獲れたといえますから。ウナギ、アユ、コイ……、いろんな魚がいたようです。クニマスが見つかったときは、ここを離れても見守ってくれていたんだなあと感動しました」。

田沢湖は濁尻の人たちの暮らしや心を潤してくれる存在だったようです。





導かれるように登ったら、 春山が一望できた



鬼川さんの話を聞いた編集部員はクニマスに詳しい田沢湖クニマス未来館の大竹館長と連れ立ち、クニマスのふ化場跡を探しに出かけました。

「このあたりのはずだなあ」と大竹館長の示すところに、雑木林に囲まれた池が、よく見ると人工的に造られた跡が見られます。放流の際に使われたものでしょうか。田沢湖へ流れる堰や分水の水門の跡もありました。

「ふ化場では、この沢の水を使っていたんだろうな」とあたりを見ていると道の脇に、「遊歩道入口」と書かれた標識が。矢印の示す方は山ばかりで半信半疑でしたが、ひかれるように歩いてみました。

晩秋の外輪山は、鮮やかな紅葉の落葉に覆われ見事な世界。こんなに身近に、田沢湖の豊かな自然を感じられるなんて。徒歩15分ほどで山頂に着くと、眼下に秋に彩られた春山集落が見えました。

導かれるように登った山は春山集落を望む絶景ポイントだったのです。



往時の春山（水尻沢）ふ化場。鬼川さん家族は、昭和9年から13年にかけてここで暮らした。

落人伝説の里？ クニマスのふ化場跡？

春山

春山に暮らす鬼川浩さんは子どものころ、クニマスのふ化場で暮らしていたといいます。今では知る人も少なくなりましたが、田沢湖にクニマスが棲んでいた時代の貴重なお話を聞かせていただきます。

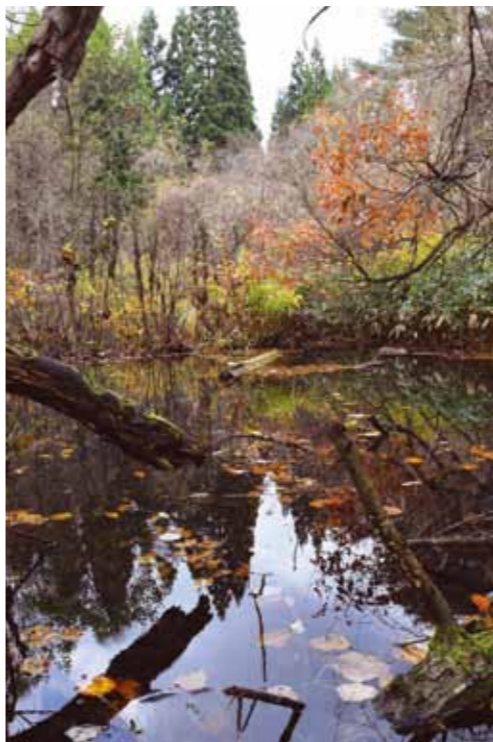


「昭和9年から13年の間、ここから引越して茅屋根のふ化場に家族と暮らしてらったな。今の田沢湖キャンプ場と県民の森の間のあたりさあったた。父親がふ化場さ勤めておってな。ふ化場さはクニマス以外にもいろんな魚だったよ。鯉、川鱒、イワナ類なんてな。クニマスを育てるのは大変だったな。1%くらいしか成魚ならねんだよ、卵1000個あっても1匹しか大人になれねくてな。食も細くて、何食べてるんだかさっぱりわからねがったな。」

また、春山については、こう語ってくれました。

「春山は昔は晴山と書いてらったな。何して変わったかはわからね。春山は平家の落人が暮らしたところと言われているけども、定かではないな。ただ、墓地には平将門の鬼丹波の記

クニマスのふ化場跡地の池。飼育池の跡かもしれない。



載があつて、そこから見える三角の山は丹波岱と呼ばれてらんし。古い本には鬼川姓を名乗る家は3軒で、最も多いときには20軒が暮らしてらった。鬼川姓の一族は、全国でここだけらしいな。」

「春山のことは、俺は本当に誇りに思っている。どこへ行っても、こんなに白浜続いているところはねえよ。昔は水が透明で本当にきれいだったな。」